

平成 20 年度

病害虫発生予報第 1 号

平成 20 年 4 月 24 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス「ジャガイモシストセンチュウについて」	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 普通作物

イネでは、イネミズソウムシの発生時期はやや早、発生量は平年並と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は平年並と予想されます。開花始め～開花盛期には予防防除を行ってください（4月18日技術情報第1号参照）。

2) 果樹

カンキツでは、かいよう病（中晩柑類）、ミカンハダニの発生量はやや少、そうか病、かいよう病（温州みかん）の発生量は少と予想されます。

ナシでは、ハダニ類の発生量は平年並、黒星病、アブラムシ類の発生量はやや少、赤星病の発生量は少と予想されます。

果樹カメムシ類の発生量は平年並と予想されますが、ナシ園等では早期からの飛来に注意してください。

3) 茶

チャでは、チャノホソガ、クワシロカイガラムシの発生量は平年並、カンザワハダニの発生量はやや少、チャノキイロアザミウマ、チャノコカクモンハマキの発生量は少と予想されます。クワシロカイガラムシについては、防除適期に関する技術情報を5月中旬頃に提供する予定です。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量はやや多と予想されますので、収穫を続ける圃場では注意してください。

5) 花卉

ツツジ類では、褐斑病、ツツジグンバイの発生量は少と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	平年並	小	普通	<p>成虫誘殺数</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 常発する圃場では箱施用による予防防除を行ってください。 2) 田植え後でも、本田施用できる薬剤で防除が可能です。
コムギ	赤かび病	—	平年並	小	普通	<p>感染 発病</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 開花盛期以降も降雨が続く場合は追加防除が必要になります。
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	<p>葉枝の発病</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 春葉での感染は発芽直後から伸長期で、通常は芽長が1 cm くらいから感染します。 2) 発芽期の防除を実施することが大切です。 3) 新葉に病斑がみられる圃場では、その後の果実へ主要な感染源となります。早期に防除を行ってください。
	かいよう病	—	(温州) 少 (中晩柑) やや少	小 小	低 普通	<p>発病密度</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 越冬病斑から新梢・果実等の若い組織へと感染していくので、初期の予防的防除がポイントです。 2) 病原細菌は、4月上中旬頃から旺盛に増殖し、降雨の際に飛散します。 3) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月上旬と下旬に防除します。
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通	<p>成ダニ密度</p>				<ol style="list-style-type: none"> 1) 冬期にマシン油乳剤を散布していない圃場では、発芽期以降密度が高くなる可能性があるので注意してください。 2) 幼虫や若虫は葉裏に生息しているので、薬剤は葉裏にかかるといねいに散布してください。 3) 成虫が1葉当り0.5~1.0頭になったら防除を計画してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	4月	5月			
								下旬	上旬		中旬	下旬
ナシ	黒星病	—	やや少	小	普通					1) 昨年の発生が多かった圃場では、今後天候の変化に注意し防除適期を逸さないようにしてください。 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。 3) 満開2週間後ころまでの幼果は品種に関係なく感染しやすいので注意が必要です。		
	赤星病	—	少	小	低					1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。 2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。		
	ハダニ類	—	平年並	小	普通					1) 成虫が1葉当り1~2頭になるまでに防除してください。		
	アブラムシ類	—	やや少	小	低					1) アブラムシ類は初期の寄生を見つけることが重要です。 2) 発育枝の先端部分に寄生している場合には、薬剤が先端部まで十分届くようにしてください。 3) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ寄生の目安になります。		
果樹共通	カメムシ類	—	平年並	小	低					1) 防除は圃場及び圃場周辺(街灯への夜間飛来など)へのカメムシ類の飛来を確認して行ってください。 2) 圃場の周辺部から先に侵入する傾向があります。 3) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。		

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通	<p>成ダニ密度</p>				1) 本年の発生量が増えるのは5月後半と思われるので、状況を見て一番茶摘採後の防除を計画してください。
	チャノホソガ	—	平年並	小	普通	<p>成虫密度</p>				1) 新葉の葉裏に産卵または孵化幼虫を認め、巻葉する可能性が高ければ、防除が必要です。 2) 新芽の展開時期にあたり摘採時期も近くなるので、使用基準（収穫前日数）に特に注意してください。 3) 幼木等を防除する場合も周辺の摘採状況等を考慮して慎重に防除してください。
	チャノキイロアザミウマ	—	少	小	低	<p>成虫密度</p>				1) 本年は一番茶芽での防除の必要性は低いと思われます。 2) 二番茶芽の開葉初期が防除適期です。
	チャノコカクモンハマキ	—	少	小	低	<p>成虫密度</p>				1) 成長すると葉を2~3枚かたく綴り葉液がかかりにくくなるので、孵化後の若齢幼虫を対象に防除してください。 2) 防除適期は成虫の発生ピークの7~10日後で、各茶期の摘採直後になる傾向があります。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	4月	5月			
								下旬	上旬		中旬	下旬
チャ	クワシロカイガラムシ	—	平年並	中	普通			第1世代 成虫密度		<ol style="list-style-type: none"> 第1世代幼虫の防除適期に関する技術情報を5月中旬頃に提供する予定です。 防除適期は、孵化最盛期から5~7日後です。 株内の枝や幹に寄生しているので、枝幹を洗い流すように散布してください。 多発圃場では深刈り更新と防除を組み合わせると効果的です。 防除適期が一番茶の摘採時期と重なって、第1世代の防除ができなかった場合は、必ず第2世代幼虫発生期の防除を実施してください。 		
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	中	普通	成ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> 収穫を続ける圃場では収穫前日数と総使用回数を守り防除してください。 		
ツツジ類	褐斑病	—	少	小	低	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 枝葉が過繁茂や密生状態で、風通しが悪く湿度が高い場合には発生しやすいので注意してください。 		
	ツツジゲンバイ	—	少	小	低	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> ツツジゲンバイは、発生回数が多いので、早期発見に努めてください。 		

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月18日発表）によると、気温は低くない予想（発生時期 -）</p> <p>2) ソメイヨシノ満開日（津市）は4月1日と早（平年4月7日）（イネミズゾウムシ越冬成虫の初飛来日と相関関係あり）（発生時期 -）</p> <p>3) 昨年8月の巡回調査圃場（払い落とし）では、成虫の発生圃場率は12.5%（平年10.4%）で多、虫数は1.7頭（平年2.7頭）でやや少（±）</p> <p>4) 昨年の予察灯（水田・松阪市、7～8月）では、誘殺数は101頭（5年平均116頭）と平年並（±）</p> <p>考察： 気象状況を考慮し発生時期はやや早、昨年の新成虫の越冬量は平年並と思われるので、予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月18日発表）によると、気温は低くなく（+）、4月第6半旬以降は晴れる日が多い（-）予想（±）</p> <p>2) コムギ出穂期は平年並、開花期間も平年並の予想（農業研究所、中央普及センター情報）（±）</p> <p>考察： 気象予報、生育予測ともに発生の増減に影響を及ぼすほどの要因ではなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月18日発表）によると、気温は低くない予想（+）</p> <p>2) 県予察圃では、初発は4月16日（平年4月18日）（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、全調査圃場で病斑未確認（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察： 急増する要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
	かいよう病	-	(温州)少 (中晩柑)やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月18日発表）によると、気温は低くない予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（中晩柑類4月14日）では、越冬病斑の発病葉率は34.5%（平年33.4%）と平年並（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、温州みかんでは発生未確認（-）、中晩柑類では平均発病度1.85（4圃場で発生）と平年よりやや多の傾向（+）（+）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～やや少（概して少）（-）</p> <p>考察： 温州みかんでは発病が増加するとは考えにくく、予想発生量は少と考えます。中晩柑類では急増する要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ナシ	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(4月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区では2.2頭(平年23.0頭)、防除区では0頭(平年1.2頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は7.8%(平年5.3%)と多(+)、発生圃場率は30.8%(平年37.3%)とやや少の傾向(-) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~並(概して少) (-)</p> <p>考察: 一般圃場での現状の発生は少と考えられ、今後の気象要因による増加を勘案しても、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	黒星病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均発病芽率は0%(平年0%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
	赤星病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均発病芽率は0%(平年2.3%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
	ハダニ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は0%(平年0%)、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0頭)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 現状の発生は平年並に少ないと考えられ、今後の気象要因による増加を勘案して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は0.3%(平年0.4%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 一般圃場での発生はやや少と考えられ、特に大きな増減の要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町4月1日~17日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ2頭(平年94頭)、ツヤアオカメムシ14頭(平年210頭)と少(-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市4月1日~20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0頭)、ツヤアオカメムシ0頭(平年0頭)と平年並(±)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1~2週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で3頭(平年10.3頭)と少(-)、中間地(津市白山町二本木)で1頭(平年5.1頭)と少(-)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で2頭(平年0.7頭)とやや多(+)(±)</p> <p>4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1地点当たり1頭(平年0.5頭)とやや多の傾向(+)</p> <p>5) 巡回調査圃場(4月第2週)では、飛来は未確認(-)</p> <p>考察： 現状予察灯では少ない傾向ですが、フェロモントラップでは一部で多く、越冬量もやや多いと考えられます。圃地への飛来が始まる可能性があり、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想(+)</p> <p>2) 県予察圃(4月上旬)では、寄生葉率は2.0%(平年11.8%)で少、1葉当寄生虫数は0.24頭(平年2.06頭)で少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均寄生葉率は1.2%(平年5.6%)と少(-)、平均寄生虫数は0.07頭(平年0.32頭)と少(-)(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少)(-)</p> <p>考察： 現状の発生は少と思われ、今後の気象要因による増加を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップでは、誘殺ピークは4月第3半旬まででは未確認(平年4月第2半旬)(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、1㎡当産卵数は0.0個(平年0.3個)と平年並の傾向(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察： 一般圃場の状況から勘案して、第1世代幼虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 吸引粘着トラップ(4月1~3半旬)では、誘殺数は23頭(平年145.8頭)と少(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、平均たたき落とし虫数は0.8頭(平年1.7頭)とやや少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少(-)</p> <p>考察： 特に大きな増減要因がないので、予想発生量は少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノコカクモン ハマキ	-	少	<p>要因</p> <p>1) フェロモントラップ(4月1~3半旬)では、誘殺数は5頭(平年29.0頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、1㎡当巻葉数は0(平年0.3)と少ない傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：特に大きな増減要因がないので、予想発生量は少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(4月第2週)では、雌平均寄生株率は19.7%(平年12.7%)と多 (+)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察：一般圃場の発生状況を重視して、第1世代幼虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	ハダニ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、寄生株率は3.6%(平年19.4%)と少 (-)</p> <p>3) 今年は天敵の導入が拡大 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+)</p> <p>考察：一般圃場の現状の発生量を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ツツジ類	褐斑病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(4月第2週)では、発病葉率0%(平年8.7%)、短枝発病枝率0%(過去3年平均27.0%)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察：特に大きな増減要因がないので、予想発生量は少と考えます。</p>
	ツツジゲンバイ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(4月18日発表)によると、気温は低くない予想 (+)</p> <p>2) 昨年10月の巡回調査圃場では、ヒラドツツジ 成虫0.0頭・幼虫0頭、サツキ 成虫0頭・幼虫0頭(過去8年平均 ヒラドツツジ 成虫0.6頭・幼虫0.1頭、サツキ 成虫0.3・幼虫0.1頭)と少ない傾向 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(4月第2週)では、ヒラドツツジ、サツキとも成虫、幼虫は0頭(平年値：ヒラドツツジ成虫0.0頭・幼虫0.0頭、サツキ成虫0.0頭・幼虫0.0頭) (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察：越冬卵は少ないと思われ、特に大きな増減要因がないので、予想発生量は少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「ジャガイモシストセンチュウについて」

1) 三重県でジャガイモシストセンチュウを発見

三重県で初めてジャガイモシストセンチュウが発見されたため、2月28日に特殊報を発表しました。国内では北海道、長崎県、青森県について4番目の発生です。

2) ジャガイモシストセンチュウとは

動物の仲間、線虫の一種です。ナス科植物を加害しますが、特にジャガイモでは収量減の被害が問題になります。

3) ジャガイモへの侵入

土中のシスト(図1)内で孵化した幼虫が根から侵入します。侵入後、雌の体は球状にふくらんでシストになり、収穫前には根から離れて土中にもどります。このシストの中には数百個の卵が入っていて、畑にジャガイモが植えられると再び根から侵入し、このサイクルが繰り返されます(図2)。

4) 被害の見分け方

三重県では現在のところ顕著な被害は認められていません。葉の萎凋や生育停滞、下葉の黄化、枯死等の症状が出るといわれています。生育の悪い株をそっと引き抜いてみて、根の表面に0.6mm位の黄色~褐色のシストが付着していたら、防除所等にお知らせ下さい。

5) 伝染の仕方

主にシストに汚染された土が農機具、タイヤ、靴などに付着して伝搬します。また、汚染された種イモの植え付け、雨水、風で伝搬することも知られています。

6) 発生地での対策

- ・ 抵抗性品種の導入が線虫密度を下げる一番有効な方法です。
- ・ 種苗検査に合格した種イモを植え付けます。
- ・ 他の圃場に土を移動させないように注意してください。
- ・ 土壌消毒を行ってください。

7) 今後の県の予定・対応

- ・ 発生地域では被害状況やその後の発生状況を追跡調査します。
- ・ 県内ジャガイモ産地での発生の有無を順次調査します。
- ・ ジャガイモシストセンチュウの対策に関する指導・助言を行います。

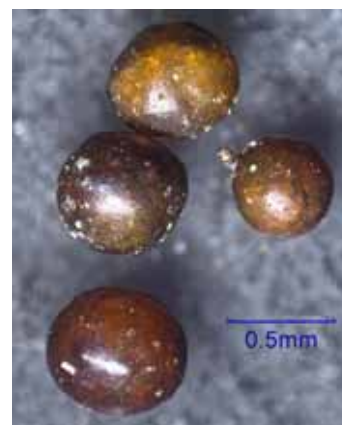


図1 シスト

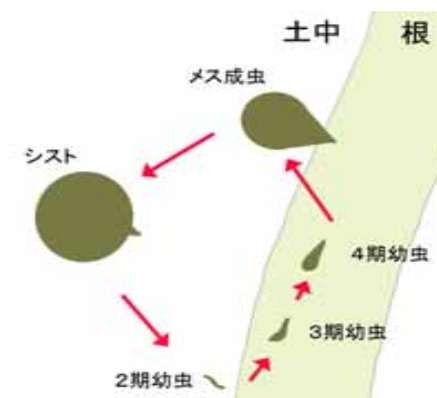


図2 生活サイクル

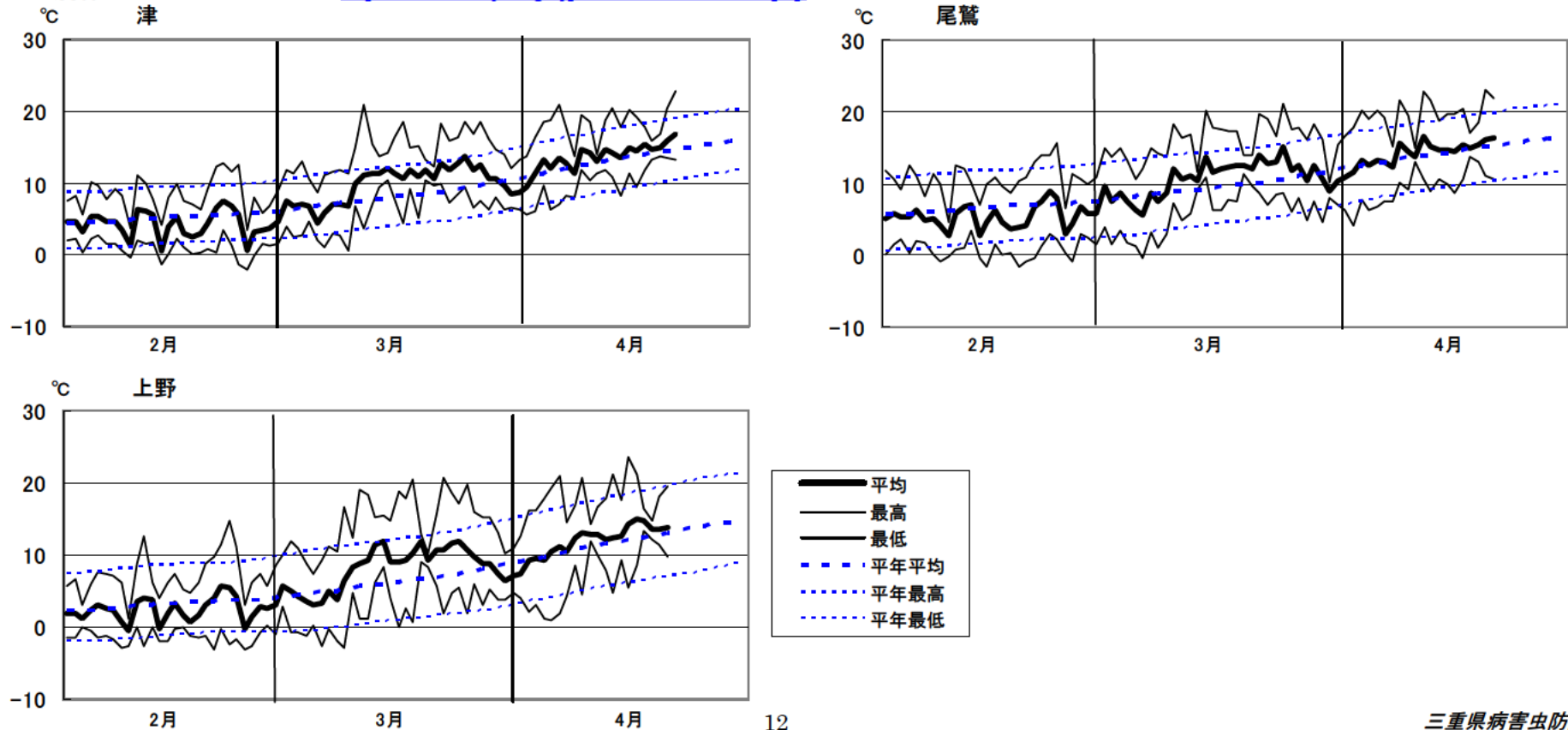
6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 20 年 4 月 18 日 名古屋地方気象台発表)

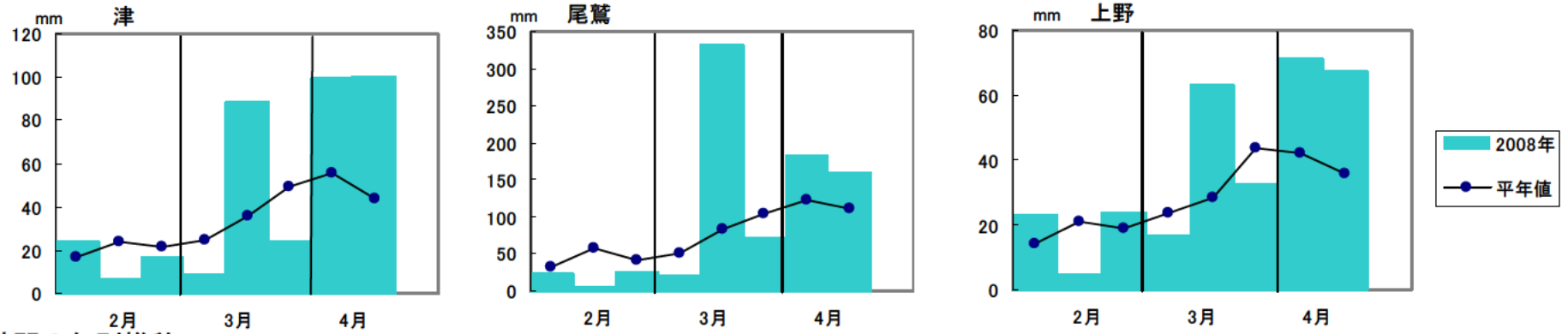
東海地方の向こう 1 か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、前線や低気圧の影響を受ける日もあるでしょう。

1 週目 (4 月 19 日～25 日)	期間のはじめは上空の寒気の影響で、曇りで雨の降る所もあるでしょう。中頃は高気圧に覆われて晴れる日がありますが、終わりは気圧の谷や前線の影響で雨の降る日がある見込みです。	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (4 月 26 日～5 月 2 日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、前線や低気圧の影響を受ける日もあるでしょう。	同 約 4 日
3～4 週目 (5 月 3 日～16 日)	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、前線や低気圧の影響を受ける日もあるでしょう。	同 約 8 日

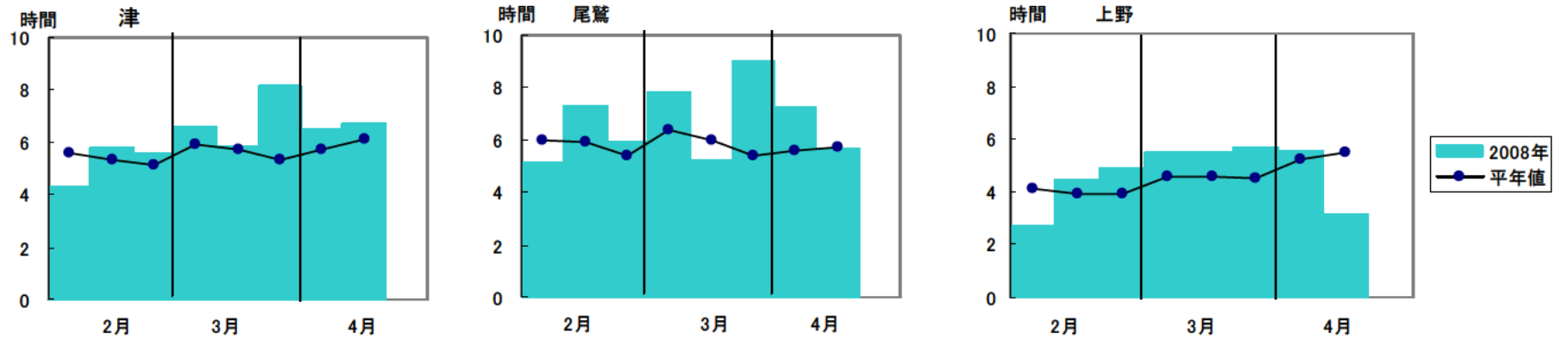
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ（前回と異なる項目にはNEWの印があります）

1) 利用方法

この病害虫発生予報は、定期的（4～8、10、3月各月の下旬）に発表されます。この予報の他、不定期に警報、注意報、特殊報、技術情報も発表されます。

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必ず「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、これらの情報のほか、各種のグラフや写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

2) メール通知サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせするサービスを行っています（三重県の総合メールマガジン管理配信システムを利用した配信になります）。この通知を希望される方は、下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

3) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。最新の農薬登録状況を確認するには、次のインターネットサイトで調べるのが便利です（下記のアドレスに変更されています）。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

4) 三重県病害虫防除の手引き

「三重県病害虫防除の手引き」を5月頃に更新する予定です。

5) NEW 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用方法を説明をした「病害虫発生予報利用の手引き」を平成20年度用に更新しました。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki_.pdf